

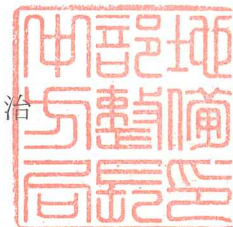


公共工事等における新技術活用システム  
事後評価結果通知書

国部整施企第 95 号  
令和 2年11月19日

株式会社ジャパックス 殿

国土交通省  
中部地方整備局長 堀田 治



新技術活用評価会議における評価の結果を様式V-5のとおり通知します。なお、評価結果についてはNETISに掲載します。

記

1. 技術名称：地上型3Dレーザスキャナ計測機を用いた舗装等の現況計測技術
2. NETIS登録番号：KK-140014-VR
3. 評価結果：様式V-5のとおり
4. 継続調査等の必要性について：継続調査等を必要としない
5. その他：この結果に基づき、当該技術のNETIS登録番号・情報種別記号は「-VE」に変更され、掲載期限が当初にNETIS登録した翌年度の4月1日から起算して10年を経過した日まで延長されます。  
また、今後の活用効果調査、事後評価は実施されません

異議申し立てについて

上記について異議がある場合は、事後評価結果を通知した日の翌日から起算して10日以内に整備局長あてに異議理由を明示した書面を提出することにより、異議申し立てを行うことができます。

(提出先)

国土交通省中部地方整備局  
新技術活用評価会議事務局

活用効果評価結果

令和2年度

中部地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報	開発目標	経済性の向上、施工精度の向上、安全性の向上									
	新技術登録番号	KK-140014-VE	区分	システム	有用な技術の位置づけ	活用促進技術					
	分類	舗装工 - アスファルト舗装工 - アスファルト舗装工 - 車道舗装工									
	新技術名	地上型3Dレーザースキャナ計測機を用いた舗装等の現況計測技術									
	比較する従来技術(従来工法)	設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量									
	新技術の概要及び特徴	本技術は、地上型3Dレーザースキャナ計測機を用いて3次元空間情報(X・Y・Z値)を取得し、3次元CAD情報化する技術。従来は、測量をトータルステーション・レベルを使って実施し、各図面作成を行っている。新技術の活用により経済性・安全性・施工精度の向上が期待できる。									
活用効果評価	所見	【優れていた所】 ・3次元レーザースキャナ計測となることで現場測量の日数が短縮され工程の短縮が図れるとともに、交通規制の必要がなくなるため、規制による事故を防ぐことができ安全性の向上が図られている。									
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての選定要件にあてはまらないため継続調査は実施しない。よって、情報種別記号「-VE」とする。				項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較					
	留意事項	・該当なし				<p>参考</p>					
	活用効果調査表における改良点及び要望	・該当なし									
活用効果調査結果	対象工事	1 舗装補修工事	(従来技術 設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量)				施工者選定型(契約後提案)				
		2 縦横断測量業務	(従来技術 設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量)				施工者選定型(契約後提案)				
		3 道路改良工事	(従来技術 設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量)				施工者選定型(契約後提案)				
		4 舗装工事	(従来技術 設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量)				施工者選定型(契約後提案)				
		5 道路改良工事	(従来技術 設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量)				施工者選定型(契約後提案)				
		6 トンネル舗装工事	(従来技術 設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量)				施工者選定型(契約後提案)				
		7 舗装工事	(従来技術 設計業務等標準積算業務技術書の現地測量・中心線測量・縦断測量・横断測量)				施工者選定型(契約後提案)				
		参考									
	項目	ケース番号 および年度	1	2	3	4	5	6	7	項目の 平均(点)	従来技術 (従来工法) (点)
	施工時 評価	経済性	H29	H29	H29	H30	H30	R1	R1		C
工程										B	C
品質・ 出来形										B	C
安全性										B	C
施工性										-	C
環境										-	C
その他											
総合評価点		B	B	B	C	B	C	B		B	
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか		今後も是非活用したい		活用を検討したい		場合によっては活用することもある		技術の改良を強く望む		各項目における判定	
		43%		43%		14%		0%		A	従来技術より極めて優れる
										B	従来技術より優れる
										C	従来技術と同等
										D	従来技術より劣る
追跡調査の必要性		不要									
追跡調査		-									